

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
運動学Ⅱ		(理) 必修 (福.人) 選択	2	(理) 1 (福.人) 1.2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
元山 美緒	D320	mio.motoyama	水曜日 14:40～16:10		
授業の目的・概要	私たちの身体運動は運動器 (筋や骨) とそれを制御する運動系 (末梢・中枢神経系) の相互作用によってもたらされている。本授業は、生理学で学ぶ生命現象をもとに運動系に特化して解説を行い、神経細胞の情報伝達機能、運動の調節や運動学習について理解することを目的とする。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	「生理学」の内容と関連づけて復習し、理解を深めてほしい。				
教科書	基礎運動学 第6版 補訂 /著: 中村隆一 他 /医歯薬出版 /2003				
参考書	生理学 第3版 /著: 内田さえ 他/編: 東洋療法学校協会 /医歯薬出版 /2014				
外部教材					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	随意運動と不随意運動 (反射など) について理解し、説明できる。			HSU (1)、(2) PT (2)、(3)	
②	感覚による運動調節について理解し、説明できる。			HSU (1)、(2) PT (2)、(3)	
③	運動学習について理解し、説明できる。			HSU (1)、(2) PT (2)、(3)	
④	神経・筋・シナプスの機能について理解し、説明できる。			HSU (1)、(2) PT (2)、(3)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	運動制御とは?: 運動器 (筋や骨) とそれを制御する運動系 (神経系) の概要について学習する。【 担当: 甘利 】	講義	教科書 (運動学とは P1~)、講義資料を読む。	4	
2	シナプスの性質: 活動電位の発生機序、シナプスにおける化学伝達と電気伝達について学習する。【 担当: 甘利 】	講義	教科書 (神経系 P88~)、講義資料を読む。	4	
3	筋収縮のメカニズム: アクチン・ミオシン滑走説、興奮収縮連関、遅筋、速筋、筋収縮の加重について学習する。【 担当: 甘利 】	講義	教科書 (運動器の構造と機能 P72~)、講義資料を読む。	4	
4	第 1-3 回の内容を細胞の情報伝達の観点から再解説することで、知識の統合をする。【 担当: 甘利 】	講義	教科書 (P72~98)、講義資料を読む。	4	
5	筋張力の制御: 運動単位とその機能分化、サイズの原理、レートコーディングによる筋張力の制御について学ぶ。【 担当: 元山 】	講義	教科書 (運動単位 P78~)、講義資料を読む。	4	
6	随意運動と不随意運動: 脳の系統発生と運動の発達、運動関連領域の機能、錐体路と錐体外路について学ぶ。【 担当: 元山 】	講義	教科書 (中枢神経、随意運動 P97~、P135)、講義資料を読む。	4	
7	高次運動野: 運動のプログラミング、高次運動野と大脳基底核について学習する。【 担当: 元山 】	講義	教科書 (運動計画 P141~)、講義資料を読む。	4	
8	自動運動: 脊髄反射による運動制御、姿勢反射による運動制御、CPG による神経調節について学習する。【 担当: 坂本 】	講義	教科書 (反射運動 P117~)、講義資料を読む。	4	
9	第 5-8 回の内容を運動制御の階層性という観点から再解説することで、知識の統合をする。【 担当: 元山 】	講義	教科書 (第 5~8 回の範囲)、講義資料を読む。	4	
10	運動の協調性: フィードフォワード・フィードバック制御、小脳による運動調整について学習する。【 担当: 元山 】	講義	教科書 (フィードフォワードとフィードバック制御 P140~)、講義資料を読む。	4	
11	感覚・運動制御: 運動制御に関連する感覚、感覚フィードバックによる運動調節について学習する。【 担当: 元山 】	講義	教科書 (感覚器の構造と機能 P154~)、講義資料を読む。	4	
12	運動の発達: 原始反射、運動発達の順番、時期について学習する。【 担当: 元山 】	講義	教科書 (発達とは P441~)、講義資料を読む。	4	
13	運動学習: 運動学習の定義、学習による運動の変化について学習する。【 担当: 駒形 】	講義	教科書 (学習と記憶 P467~)、講義資料を読む。	4	
14	第 10-13 回の内容を運動発達と運動学習という観点から再解説し、知識の統合をする。【 担当: 元山 】	講義	教科書 (第 10~13 回の範囲)、講義資料を読む。	4	
15	ここまでの学習の総括を行う。【 担当: 元山 】	講義	講義資料を読む。	4	
試	定期試験 達成度評価・評価のポイント参照				

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		100	0	0	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	70	0	0	0	0	70
	思考・推論・創造する力	30	0	0	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	筆記による定期試験を実施して評価する。定期試験では各授業で配布したプリントの内容を確認する問題を出題し、理解度を問う。				試験の添削、開示
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	甘利 貴志、駒形 純也、坂本 祐太						
教員の実務経験	実務経験年数：6年(5年10ヶ月) 回復期病院にて亜急性～回復期の呼吸器、循環器、脳血管疾患を担当。						
実践的授業の内容	臨床経験を活かした運動学的内容を教授する。						
そ の 他	* 大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を厳守すること。 問題がある場合は面接授業の参加は認めない。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバス変更の可能性がある。						